



2023年3月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2022年11月8日

上場会社名 参天製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4536 URL <https://www.santen.com/ja/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 伊藤 毅

問合せ先責任者 (役職名) IR室 室長 (氏名) 佐久間 ギヨム TEL 06-7664-8621

四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 2022年11月30日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績 (2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

IFRS (フル) ベース

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	128,915	0.1	△19,021	—	△19,103	—	△22,019	—	△22,041	—	△8,412	—
2022年3月期第2四半期	128,759	8.3	18,805	0.6	18,393	0.2	14,254	4.1	14,307	3.6	14,858	△19.7

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△56.05	△56.05
2022年3月期第2四半期	35.79	35.73

コアベース

	売上収益		コア営業利益		コア四半期利益		親会社の所有者に 帰属する コア四半期利益		基本的1株当たり コア四半期利益	希薄化後1株当たり コア四半期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	128,915	0.1	16,451	△32.3	12,465	△32.8	12,484	△32.8	31.73	31.69
2022年3月期第2四半期	128,759	8.3	24,306	△5.4	18,556	△5.7	18,586	△5.7	46.50	46.41

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	426,580	309,415	310,072	72.7	799.94
2022年3月期	459,976	336,844	337,488	73.4	843.60

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	16.00	—	16.00	32.00
2023年3月期	—	16.00	—	—	—
2023年3月期 (予想)	—	—	—	16.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

IFRS (フル) ベース

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前当期利益		当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	280,000	5.2	4,000	△88.9	3,000	△91.6	△5,500	—	△14.20

コアベース

	売上収益		コア営業利益		コア当期利益		基本的1株当たり コア当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	280,000	5.2	45,500	△1.8	34,100	△3.1	88.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

- IFRS (フル) ベースの数値からコアベースの数値への調整内容は、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (1) 経営成績に関する説明 (P6参照)」をご覧ください。
- 2022年10月4日開催の取締役会において、自己株式の消却について決議し、2022年10月31日に消却しました。また、2022年11月8日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議しました。2023年3月期の連結業績予想における「基本的1株当たり当期利益」及び「基本的1株当たりコア当期利益」については、当該自己株式の消却及び取得の影響を考慮しています。なお、当該自己株式の消却及び取得については添付資料「2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 (5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 (P17参照)」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	400,708,354株	2022年3月期	400,694,754株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	12,858,160株	2022年3月期	423,668株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	393,314,840株	2022年3月期2Q	399,679,863株

(注) 期末自己株式数には、株式報酬制度に係る信託が保有する当社株式（2022年3月期 16,271株、2023年3月期2Q 55,202株）が含まれています。また、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めています。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績等は、様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2022年11月8日（火）に証券アナリスト、機関投資家向けの第2四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用する資料は、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	8
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	9
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	10
(1) 要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書	10
(2) 要約四半期連結財政状態計算書	11
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	13
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	16
(継続企業の前提に関する注記)	16
(その他の費用)	16
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	16
(重要な後発事象)	17
3. 連結参考資料	18
(1) 主要製品売上収益	18
(2) 主要通貨為替レート	18
(3) 開発状況	19
(4) 設備投資、減価償却費及び償却費、製品に係る無形資産償却費並びに研究開発費	21

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当第2四半期連結累計期間の業績の状況

(ア) IFRS（フル）ベース

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上収益	128,759	128,915	157	0.1%
営業利益（△は損失）	18,805	△19,021	△37,826	－%
四半期利益（△は損失）	14,254	△22,019	△36,274	－%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益（△は損失）	14,307	△22,041	△36,349	－%

[売上収益]

前年同期と比べ0.1%増加し、1,289億円となりました。

主力の医療用医薬品事業は、中国で新型コロナウイルス対策による厳格な防疫措置等の影響を強く受けたものの、日本では薬価改定の影響を最小限に止め、アジア・EMEAでは主力製品が堅調に推移したこと等により、前年同期と比べ0.9%減少し、1,193億円となりました。

売上収益の内訳は次のとおりです。

上段：金額

下段：対前年同期増減率、()は為替影響を除いた対前年同期増減率

(単位：百万円)

	日本	中国	アジア	EMEA	米州	合計
医療用医薬品	71,749	9,812	11,059	24,964	1,749	119,333
	△5.2%	△29.9%	26.7%	21.8%	19.1%	△0.9%
	(-%)	(△39.8%)	(15.9%)	(12.0%)	(2.3%)	(△4.7%)
一般用医薬品	5,068	114	456	—	—	5,639
	5.8%	—	54.1%	—	—	10.8%
	—	—	—	—	—	—
医療機器	1,624	5	—	1,141	241	3,012
	5.3%	—	—	53.9%	21.8%	21.4%
	—	—	—	—	—	—
その他	841	19	71	—	—	932
	9.3%	10.5%	116.3%	—	—	13.6%
	—	—	—	—	—	—
合計	79,283	9,951	11,586	26,105	1,990	128,915
	△4.2%	△29.0%	27.9%	22.9%	19.4%	0.1%
	(-%)	(△38.9%)	(16.8%)	(13.1%)	(2.1%)	(△3.6%)

(注) 外部顧客に対する売上収益を表しています。

顧客の所在地をもとに国又は地域に分類しています。なお、アジアには中国を含んでいません。

EMEAは、欧州、中東及びアフリカです。

<医療用医薬品>

◇日本

主力品アレジオン点眼液の拡大再算定を含む4%台半ばの薬価改定の影響を最小限に止め、前年同期と比べ5.2%減少し、717億円となりました。主力製品の売上は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「タプロス点眼液」	40億円	（対前年同期増減率	△9.1%）
「タプコム配合点眼液」	14億円	（対前年同期増減率	△3.9%）
「コソプト配合点眼液」	25億円	（対前年同期増減率	△18.2%）
「エイベリス点眼液」	19億円	（対前年同期増減率	+18.7%）
・角結膜疾患治療剤領域			
「ジクアス点眼液」	68億円	（対前年同期増減率	+1.8%）
・抗アレルギー点眼剤領域			
「アレジオン点眼液 ^{※1} （P5参照）」	79億円	（対前年同期増減率	△17.1%）
・網膜疾患治療剤領域			
「アイリーア硝子体内注射液 ^{※2} （P5参照）」	358億円	（対前年同期増減率	△1.7%）

◇中国

新型コロナウイルス対策の厳格な防疫措置等の影響を受け、円換算ベースで前年同期と比べ29.9%減少し（為替影響を除いた成長率は△39.8%）、98億円となりました。主力製品の売上は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「タプロス点眼液」	4億円	（対前年同期増減率	△4.7%）
・角結膜疾患治療剤領域			
「ジクアス点眼液」	16億円	（対前年同期増減率	△3.1%）
「ヒアレイン点眼液」	26億円	（対前年同期増減率	△38.6%）
・眼感染症治療剤領域			
「クラビット点眼液」	26億円	（対前年同期増減率	△41.4%）

◇アジア（中国除く）

新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、普及促進基盤の強化により、円換算ベースで前年同期と比べ26.7%増加し（為替影響を除いた成長率は+15.9%）、111億円となりました。主力製品の売上は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「タプロス点眼液」	11億円	（対前年同期増減率	+14.4%）
「タプコム配合点眼液」	5億円	（対前年同期増減率	+39.6%）
「コソプト配合点眼液」	29億円	（対前年同期増減率	+19.0%）
・角結膜疾患治療剤領域			
「ジクアス点眼液」	9億円	（対前年同期増減率	+10.5%）
「Ikervis（アイケルビス）」	8億円	（対前年同期増減率	+50.3%）
・眼感染症治療剤領域			
「クラビット点眼液」	10億円	（対前年同期増減率	+19.6%）

◇EMEA

ロシア・ウクライナ紛争の影響を受けたものの、円換算ベースで前年同期と比べ21.8%増加し（為替影響を除いた成長率は+12.0%）、250億円となりました。主力製品の売上は次のとおりです。

・緑内障・高眼圧症治療剤領域			
「タプロス点眼液」	39億円	（対前年同期増減率	+15.3%）
「タプコム配合点眼液」	22億円	（対前年同期増減率	+33.8%）
「コソプト配合点眼液」	61億円	（対前年同期増減率	+15.6%）
「トルソプト点眼液」	17億円	（対前年同期増減率	+12.7%）
・角結膜疾患治療剤領域			
「Ikervis（アイケルビス）」	29億円	（対前年同期増減率	+16.4%）
「Cationorm（カチオノーム）」	14億円	（対前年同期増減率	+34.1%）
・抗アレルギー点眼剤領域			
「Verkazia（ベルカジア）」	4億円	（対前年同期増減率	+43.8%）

◇米州

円換算ベースで前年同期と比べ19.1%増加し（為替影響を除いた成長率は+2.3%）、17億円となりました。

<一般用医薬品>

前年同期と比べ10.8%増加し、56億円となりました。

「サンテメディカルシリーズ」「サンテボーティエシリーズ」「ソフトサンティアシリーズ」などの高価格帯品に加え、スイッチOTC製品「ヒアレインS」、「サンテFXシリーズ」、前連結会計年度に販売を開始した点眼型洗眼薬「ウェルウォッシュアイ」に注力しています。

<医療機器>

プリザーフロ マイクロシャントのEMEAでの販売を本格化し、前年同期と比べ21.4%増加し、30億円となりました。主力製品の売上は次のとおりです。

「レンティス コンフォート」	6億円	（対前年同期増減率	△4.4%）
「プリザーフロ マイクロシャント」	11億円	（対前年同期増減率	+54.4%）

<その他>

その他の売上収益は9億円となりました。サプリメント製品の販売、株式会社クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものです。

[営業損失]

売上総利益は、前年同期と比べ3.8%減少し、730億円となりました。

IFRS（フル）ベースの販売費及び一般管理費は、前年同期と比べ6.7%増加し（為替影響を除いた対前年同期増減率は△0.1%）、423億円となりました。

研究開発費は、前年同期と比べ15.6%増加し（為替影響を除いた対前年同期増減率は+6.2%）、143億円となりました。

製品に係る無形資産償却費は、前年同期と比べ7.9%増加し（為替影響を除いた対前年同期増減率は+1.3%）、52億円となりました。これは主に、Merck & Co., Inc.（米国）から2014年に譲り受けた眼科製品に関する無形資産、2015年より欧州で販売を開始した「Ikervis（アイケルビス）」に関する無形資産、2016年のInnFocus, Inc.（米国）買収に伴い取得したプリザーフロ マイクロシャントに関する無形資産、並びに2020年のEyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）買収に伴い取得した眼科製品に関する無形資産の償却によるものです。

その他の収益は、3億円となりました。

その他の費用は、306億円となりました。これは主に、Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）及びその傘下の事業会社であるEyevance Pharmaceuticals LLC（米国）に係る有形固定資産及び無形資産（のれん及び開発製造販売権）の帳簿価額全額を減損処理したことによるものです。

これらにより、IFRS（フル）ベースの営業損失は190億円（前年同期は188億円の営業利益）となりました。

[四半期損失]

金融収益は、12億円となりました。

金融費用は、3億円となりました。

持分法による投資損失は、11億円となりました。これは主にVerily Life Sciences LLC（米国）との合弁会社であるTwenty Twenty Therapeutics LLC（米国）の損益のうち、当社の持分に帰属する金額を計上したものです。

法人所得税費用は、前年同期から12億円減少し、29億円となりました。これは主に、上述のIFRS（フル）ベースの営業利益の減少に伴う税引前四半期利益の減少によるものです。

これらにより、四半期損失は220億円（前年同期は143億円の四半期利益）となりました。

[親会社の所有者に帰属する四半期損失]

親会社の所有者に帰属する四半期損失は220億円（前年同期は143億円の親会社の所有者に帰属する四半期利益）となりました。

※1 アレジオンLX点眼液を含みます。

※2 製造販売元であるバイエル薬品株式会社とのコ・プロモーション製品です。

（イ）コアベース ※3

（単位：百万円）

	前第2四半期	当第2四半期	対前年同期増減率
売上収益	128,759	128,915	0.1%
コア営業利益	24,306	16,451	△32.3%
コア四半期利益	18,556	12,465	△32.8%
親会社の所有者に帰属する コア四半期利益	18,586	12,484	△32.8%

[売上収益]

IFRS（フル）ベースからの調整はありません。

[コア営業利益]

売上総利益について、IFRS（フル）ベースからの調整はありません。

販売費及び一般管理費は、前年同期と比べ7.8%増加し、423億円となりました。なお、IFRS（フル）ベースからの調整内容として、前第2四半期では企業結合における統合業務等に係る費用を販売費及び一般管理費から控除していましたが、当第2四半期では該当事項はありません。

研究開発費は、IFRS（フル）ベースからの調整はありません。

以上により、コアベースでの営業利益は、前年同期と比べ32.3%減少し、165億円となりました。

※3 Santenグループでは2015年3月期のIFRS適用を機に、IFRSによる業績（「IFRS（フル）ベース」）から一部の収益及び費用を控除した「コアベース」での財務情報を事業活動自体の収益性を示す指標として開示しています。IFRS（フル）ベースによる業績からコアベースでの業績への調整において控除する以下の収益及び費用とそれらに係る法人所得税費用を調整し、コアベースを算出しています。

- ・製品に係る無形資産償却費
- ・その他の収益
- ・その他の費用
- ・金融収益
- ・金融費用
- ・持分法による投資損益
- ・販売費及び一般管理費のうち企業買収などに係る費用

② 研究開発活動

<緑内障・高眼圧症領域>

プロスタグランジンF₂α誘導体及びβ遮断剤の配合剤STN1011101（DE-111A、一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、中国で2019年1月から第Ⅲ相試験を実施しています。

EP2受容体作動薬STN1011700（DE-117、一般名：オミデネパグ イソプロピル）は、米国で2022年9月に販売承認を取得しました。日本では2018年11月に発売しました。アジアでは2021年2月の韓国以降、複数国で順次発売しています。

FP/EP3受容体デュアル作動薬STN1012600（DE-126、一般名：sepetaprost）は、米国で2021年12月に追加の第Ⅱ相試験を終了しました。日本では2022年8月に第Ⅲ相試験を開始しました。欧州では2021年9月に第Ⅱ相試験（探索的試験）を開始しました。

緑内障用デバイスSTN2000100（DE-128）は、日本で2022年7月に発売（ソフトローンチ）しました。欧州では2019年4月に発売しました。アジアでは2020年3月以降順次販売承認を申請しており、2021年9月以降シンガポールなどで承認を取得しました。

プロスタグランジンF₂α誘導体の乳化点眼剤STN1013001（DE-130A、一般名：ラタノプロスト）は、2022年3月に欧州及びアジアで第Ⅲ相試験を終了しました。欧州では2022年9月に販売承認を申請しました。

ROCK阻害剤STN1013900（AR-13324、一般名：ネタルスジルメシル酸塩）は、日本で2020年11月から第Ⅲ相試験を実施しています。欧州では販売承認を取得済みです。アジアでは2022年3月に販売承認を申請しました。

ROCK阻害剤及びプロスタグランジンF₂α誘導体の配合剤STN1014000（PG-324、一般名：ネタルスジルメシル酸塩／ラタノプロスト）は、欧州で販売承認を取得済みです。アジアでは2022年5月に販売承認を申請しました。

<角結膜疾患（ドライアイを含む）領域>

春季カタルを対象とするSTN1007603（DE-076C、一般名：シクロスポリン）は、既に承認・販売されている欧州、アジア、カナダなどに続き、中国で2022年4月に販売承認を取得しました。米国では2022年5月に発売しました。

ドライアイを対象とするSTN1008903（DE-089C、一般名：ジクアホソルナトリウム）は、日本で2022年6月に製造販売承認を取得しました。

マイボーム腺機能不全を対象とするSTN1010905（一般名：シロリムス）は、日本で2022年8月に前期第Ⅱ相試験を終了しました。

アレルギー性結膜炎を対象とするSTN1011402（一般名：エピナスチン塩酸塩）は、日本で2022年10月に第Ⅲ相試験を終了しました。

フックス角膜内皮ジストロフィを対象としてアクチュアライズ株式会社と共同開発契約を締結しているSTN1010904*（一般名：シロリムス）は、2022年5月に、米国、フランス、インドでの前期第Ⅱ相試験を開始しました。（*開発コード（STN1010904）は、第Ⅱ相試験終了時に当社が独占の実施権を獲得した後に附番予定のコードです。）

<屈折異常領域>

小児における近視を対象とするSTN1012700（DE-127、一般名：アトロピン硫酸塩）は、日本で2019年8月から第Ⅱ／Ⅲ相試験を実施しています。中国では2022年6月に第Ⅱ／Ⅲ相試験を開始しました。アジアでは2020年4月に第Ⅱ相試験を終了しました。

小児における近視を対象とするSTN1012701（SYD-101、一般名：アトロピン硫酸塩）は、導入元であるSydnexis Inc.（米国）により欧州及び米国で第Ⅲ相試験が実施されています。当社は、欧州、中東及びアフリカ地域における独占ライセンス権を保有しています。

近視を対象とするSTN1013400（化合物名：AFDX0250BS）は、日本で2021年9月に第Ⅰ相試験を終了しました。

老視を対象とするSTN1013600（一般名：ウルソデオキシコール酸）は、日本で2022年4月に第Ⅰ相試験を終了しました。

<その他の領域>

眼瞼下垂を対象とするSTN1013800（一般名：オキシメタゾリン塩酸塩）は、日本で2022年10月に第Ⅲ相試験を開始しました。

※開発コードの附番方法変更に伴い、新開発コード（STNXXXXXX）及び既存開発コード（DE-XXX）を併記しています。なお、AR-13324及びPG-324はAerie Pharmaceuticals, Inc.（米国）、SYD-101はSydnexis Inc.（米国）での開発コードです。

（2）財政状態に関する説明

① 資産、資本及び負債の状況

当第2四半期末の資産は、4,266億円となりました。滋賀プロダクトサプライセンター敷地内における医療用点眼薬製造のための第3棟の増設に伴う有形固定資産の増加などがあった一方、Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）及びEyevance Pharmaceuticals LLC（米国）に係る無形資産（のれん及び開発製造販売権）の減損に伴う無形資産の減少、営業債権及びその他の債権の減少、並びに配当金の支払及び自己株式の取得による現金の減少などにより前期末と比べ334億円減少しました。

資本は、3,094億円となりました。その他の資本の構成要素の増加などがあった一方、自己株式の取得及び当期損失による利益剰余金の減少により前期末と比べ274億円減少しました。

負債は、1,172億円となりました。滋賀プロダクトサプライセンター敷地内における第3棟の設備投資に関する長期借入れによる金融負債の増加などがあった一方、営業債務及びその他の債務の減少、短期借入金の返済等によるその他の金融負債の減少、並びに賞与の支払によるその他の流動負債の減少などにより前期末と比べ60億円減少しました。

以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は、前期末と比べ0.7ポイント減少し、72.7%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、183億円の収入（前年同期は271億円の収入）となりました。主に四半期損失220億円、Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）及びEyevance Pharmaceuticals LLC（米国）に係る無形資産の減損等に伴う減損損失305億円、減価償却費及び償却費90億円、営業債権及びその他の債権の減少138億円、並びに営業債務及びその他の債務の減少44億円などによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、188億円の支出（前年同期は171億円の支出）となりました。主に有形固定資産の取得による支出112億円及び無形資産の取得による支出47億円によるものです。また政策保有株式の見直しを加速しており、当第2四半期は1銘柄の投資の売却による収入が10億円ありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、161億円の支出（前年同期は30億円の収入）となりました。長期借入れによる収入155億円がありましたが、主に短期借入金の返済による支出111億円、自己株式の取得による支出130億円、並びに配当金の支払額64億円などによるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、前期末と比べ139億円減少し、691億円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）及びEyevance Pharmaceuticals LLC（米国）関連資産の減損損失の計上、日本事業の予想を上回る推移及び円安影響を含めた地域別売上見込みの変動等に伴い、2022年5月10日に公表した連結業績予想を次のとおり変更することにしました。

IFRS（フル）ベース

	売上収益	営業利益	税引前 当期利益	当期利益又は 損失 (△)	基本的1株当たり 当期利益又は損失 (△)
前回発表予想（A） （2022年5月10日公表）	百万円 264,000	百万円 34,200	百万円 32,500	百万円 24,400	円 銭 61.96
今回修正予想（B）	280,000	4,000	3,000	△5,500	△14.20
増減額（B－A）	16,000	△30,200	△29,500	△29,900	
増減率（％）	6.1%	△88.3%	△90.8%	—	
（参考）前期連結実績 （2022年3月期）	266,257	35,886	35,616	27,189	68.07

コアベース

	売上収益	コア営業利益	コア当期利益	基本的1株当たり コア当期利益
前回発表予想（A） （2022年5月10日公表）	百万円 264,000	百万円 45,500	百万円 34,100	円 銭 86.59
今回修正予想（B）	280,000	45,500	34,100	88.04
増減額（B－A）	16,000	0	0	
増減率（％）	6.1%	0.0	0.0	
（参考）前期連結実績 （2022年3月期）	266,257	46,348	35,195	88.16

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上収益	128,759	128,915
売上原価	△52,867	△55,902
売上総利益	75,891	73,013
販売費及び一般管理費	△39,652	△42,296
研究開発費	△12,338	△14,267
製品に係る無形資産償却費	△4,787	△5,166
その他の収益	203	260
その他の費用	△512	△30,566
営業利益 (△は損失)	18,805	△19,021
金融収益	672	1,245
金融費用	△440	△262
持分法による投資損失	△643	△1,064
税引前四半期利益 (△は損失)	18,393	△19,103
法人所得税費用	△4,139	△2,917
四半期利益 (△は損失)	14,254	△22,019
その他の包括利益		
純損益に振り替えられない項目：		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	△134	2,092
純損益に振り替えられる可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	653	10,052
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	85	1,464
その他の包括利益	604	13,607
四半期包括利益合計	14,858	△8,412
四半期利益 (△は損失) の帰属		
親会社の所有者持分	14,307	△22,041
非支配持分	△53	22
四半期利益 (△は損失)	14,254	△22,019
四半期包括利益合計の帰属		
親会社の所有者持分	14,927	△8,400
非支配持分	△69	△12
四半期包括利益合計	14,858	△8,412
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	35.79	△56.05
希薄化後1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	35.73	△56.05
<コアベース>		
売上収益	128,759	128,915
コア営業利益	24,306	16,451
コア四半期利益	18,556	12,465
基本的1株当たりコア四半期利益 (円)	46.50	31.73
希薄化後1株当たりコア四半期利益 (円)	46.41	31.69
コア四半期利益の帰属		
親会社の所有者持分	18,586	12,484
非支配持分	△30	△19
コア四半期利益	18,556	12,465

（2）要約四半期連結財政状態計算書

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	56,287	65,609
無形資産	130,217	103,081
金融資産	28,673	31,832
退職給付に係る資産	3,011	2,650
持分法で会計処理されている投資	7,565	11,435
繰延税金資産	3,103	3,161
その他の非流動資産	1,695	1,963
非流動資産合計	230,551	219,730
流動資産		
棚卸資産	37,141	39,100
営業債権及びその他の債権	99,591	87,683
その他の金融資産	1,293	800
その他の流動資産	8,387	10,127
現金及び現金同等物	83,014	69,140
流動資産合計	229,426	206,850
資産合計	459,976	426,580

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	8,672	8,678
資本剰余金	9,370	9,411
自己株式	△718	△13,373
利益剰余金	290,477	262,550
その他の資本の構成要素	29,688	42,807
親会社の所有者に帰属する持分合計	337,488	310,072
非支配持分	△645	△657
資本合計	336,844	309,415
負債		
非流動負債		
金融負債	22,023	38,127
退職給付に係る負債	1,077	1,142
引当金	738	758
繰延税金負債	2,526	4,785
その他の非流動負債	948	1,360
非流動負債合計	27,312	46,172
流動負債		
営業債務及びその他の債務	41,185	37,178
その他の金融負債	38,533	24,707
未払法人所得税等	4,198	2,371
引当金	939	982
その他の流動負債	10,965	5,756
流動負債合計	95,821	70,994
負債合計	123,133	117,165
資本及び負債合計	459,976	426,580

（3）要約四半期連結持分変動計算書

前第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

（単位：百万円）

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
2021年4月1日残高	8,525	8,954	△934	273,238	—	11,075
四半期包括利益						
四半期利益（△は損失）				14,307		
その他の包括利益						△134
四半期包括利益合計	—	—	—	14,307	—	△134
所有者との取引額						
新株の発行	12	12				
自己株式の取得			△12			
自己株式の処分		15	228			
配当金				△5,598		
株式報酬取引		△121				
その他				349		△349
所有者との取引額合計	12	△93	216	△5,249	—	△349
2021年9月30日残高	8,538	8,860	△718	282,296	—	10,593

	その他の資本の構成要素				親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
	在外営業活動体の換算差額	持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	新株予約権	合計			
2021年4月1日残高	8,634	170	518	20,398	310,181	△535	309,646
四半期包括利益							
四半期利益（△は損失）				—	14,307	△53	14,254
その他の包括利益	669	85		620	620	△16	604
四半期包括利益合計	669	85	—	620	14,927	△69	14,858
所有者との取引額							
新株の発行			△13	△13	12		12
自己株式の取得				—	△12		△12
自己株式の処分				—	243		243
配当金				—	△5,598		△5,598
株式報酬取引				—	△121		△121
その他				△349	—		—
所有者との取引額合計	—	—	△13	△362	△5,476	—	△5,476
2021年9月30日残高	9,303	255	505	20,656	319,632	△603	319,029

当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

（単位：百万円）

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
2022年4月1日残高	8,672	9,370	△718	290,477	—	8,438
四半期包括利益						
四半期利益（△は損失）				△22,041		
その他の包括利益						2,092
四半期包括利益合計	—	—	—	△22,041	—	2,092
所有者との取引額						
新株の発行	6	6				
自己株式の取得		△28	△13,007			
自己株式の処分		△2	352			
配当金				△6,405		
株式報酬取引		65				
その他				519		△519
所有者との取引額合計	6	41	△12,655	△5,886	—	△519
2022年9月30日残高	8,678	9,411	△13,373	262,550	—	10,012

	その他の資本の構成要素				親会社に 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
	在外営業 活動体の 換算差額	持分法適用 会社におけ るその他の 包括利益に 対する持分	新株予約権	合計			
2022年4月1日残高	19,950	914	384	29,688	337,488	△645	336,844
四半期包括利益							
四半期利益（△は損失）				—	△22,041	22	△22,019
その他の包括利益	10,086	1,464		13,642	13,642	△35	13,607
四半期包括利益合計	10,086	1,464	—	13,642	△8,400	△12	△8,412
所有者との取引額							
新株の発行			△5	△5	7		7
自己株式の取得				—	△13,035		△13,035
自己株式の処分				—	351		351
配当金				—	△6,405		△6,405
株式報酬取引				—	65		65
その他				△519	—		—
所有者との取引額合計	—	—	△5	△523	△19,017	—	△19,017
2022年9月30日残高	30,037	2,378	380	42,807	310,072	△657	309,415

（4）要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
四半期利益（△は損失）	14,254	△22,019
減価償却費及び償却費	8,302	9,020
減損損失	48	30,501
持分法による投資損益（△は益）	643	1,064
金融収益及び金融費用（△は益）	△343	△227
法人所得税費用	4,139	2,917
営業債権及びその他の債権の増減（△は増加）	9,885	13,827
棚卸資産の増減（△は増加）	1,468	△1,263
営業債務及びその他の債務の増減（△は減少）	△338	△4,430
引当金及び退職給付に係る負債の増減（△は減少）	378	△7
その他の流動資産の増減（△は増加）	△2,705	△1,241
未払賞与の増減（△は減少）	△1,516	△3,765
未払金の増減（△は減少）	△1,381	△2,434
その他	△1,058	△110
小計	31,777	21,831
利息の受取額	136	113
配当金の受取額	250	226
利息の支払額	△102	△199
法人所得税の支払額	△4,966	△3,639
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,096	18,332
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資の取得による支出	△536	△313
投資の売却による収入	746	991
有形固定資産の取得による支出	△9,792	△11,241
無形資産の取得による支出	△4,711	△4,683
持分法で会計処理される投資の取得による支出	△2,759	△3,470
その他	△4	△94
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,057	△18,811
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△11,089
長期借入れによる収入	10,000	15,544
自己株式の取得による支出	△12	△13,007
配当金の支払額	△5,596	△6,402
リース負債の返済による支出	△1,432	△1,717
その他	12	547
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,972	△16,123
現金及び現金同等物の増減額	13,011	△16,602
現金及び現金同等物の期首残高	62,888	83,014
現金及び現金同等物の為替変動による影響	136	2,727
現金及び現金同等物の四半期末残高	76,036	69,140

（5）要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の費用）

当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

当第2四半期連結累計期間に30,501百万円の減損損失を計上しており、要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書の「その他の費用」に計上しています。

これは主にEyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）及びEyevance Pharmaceuticals LLC（米国）の製品に係る無形資産、のれん、及び有形固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失30,008百万円（製品に係る無形資産22,296百万円、のれん7,418百万円、有形固定資産294百万円）を認識したことによるものです。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

（自己株式の取得）

当社は、2022年5月10日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議しました。

これにより、2022年5月11日から2022年9月30日までに12,500,000株を総額12,733百万円で取得しました。なお、当該決議に基づく自己株式の取得は、2022年9月8日（約定ベース）をもって終了しました。

（1）自己株式の取得を行った理由

利益還元の強化と資本効率の更なる向上を図るために行ったものです。

（2）取得に係る事項の内容

- | | |
|--------------|---------------------------------------------------------------|
| ① 取得対象株式の種類 | 当社普通株式 |
| ② 取得し得る株式の総数 | 12,500,000株（上限）
（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 3.1%） |
| ③ 株式の取得価額の総額 | 150億円（上限） |
| ④ 取得期間 | 2022年5月11日～2022年9月30日 |
| ⑤ 取得方法 | 投資一任契約に基づく市場買付け |
| ⑥ その他 | 本件により取得した自己株式については、会社法第178条の規定に基づく取締役会決議により、当連結会計年度に消却する予定です。 |

（重要な後発事象）

（1）自己株式の消却に係る事項の決定（会社法第178条の規定に基づく自己株式の消却）

当社は、2022年10月4日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式の消却に係る事項について決議し、2022年10月31日に消却を行いました。

なお、今回消却した自己株式は、2022年5月10日開催の取締役会決議に基づき取得した自己株式になります。

- ① 消却した株式の種類 当社普通株式
- ② 消却した株式の総数 12,500,000株
(消却前の発行済株式総数に対する割合 3.1%)
- ③ 消却実施日 2022年10月31日

（2）自己株式取得に係る事項の決定（会社法第165条第2項の規定による定款の定めに基づく自己株式の取得）

当社は、2022年11月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議しました。

- ① 自己株式の取得を行う理由
利益還元強化と資本効率の更なる向上を図るために行うものです。
- ② 取得に係る事項の内容
 - (i) 取得対象株式の種類 当社普通株式
 - (ii) 取得しうる株式の総数 13,000,000株（上限）
(発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 3.4%)
 - (iii) 株式の取得価額の総額 130億円（上限）
 - (iv) 取得期間 2022年11月9日～2023年3月24日
 - (v) 取得方法 取引一任方式による市場買付け
 - (vi) その他 本件により取得した自己株式については、会社法第178条の規定に基づく取締役会決議により、消却する予定です。

3. 連結参考資料

(1) 主要製品売上収益

(単位：百万円)

品目名	地域	2022年3月期				2023年3月期			
		第2四半期 累計実績	対前年 伸長率	通期 実績	対前年 伸長率	第2四半期 累計実績	対前年 伸長率	通期 見込	対前年 伸長率
緑内障・高眼圧症治療剤領域									
コソプト配合点眼液	合計	10,758	0.3%	21,752	4.2%	11,496	6.9%	22,225	2.2%
	日本	3,018	△20.9%	5,650	△18.6%	2,468	△18.2%	4,677	△17.2%
	アジア	2,463	17.3%	5,157	15.6%	2,930	19.0%	5,796	12.4%
	EMEA	5,277	9.7%	10,945	15.5%	6,098	15.6%	11,752	7.4%
タプロス点眼液	合計	9,186	0.8%	18,423	2.8%	9,416	2.5%	19,069	3.5%
	日本	4,399	△4.5%	8,409	△3.4%	3,999	△9.1%	7,673	△8.8%
	中国	465	101.9%	1,170	94.3%	443	△4.7%	1,802	53.9%
	アジア	983	3.0%	2,077	8.9%	1,124	14.4%	2,325	12.0%
タブコム配合点眼液	合計	3,440	16.3%	6,971	15.5%	4,092	19.0%	8,201	17.7%
	日本	1,412	5.7%	2,738	5.1%	1,357	△3.9%	2,629	△4.0%
	アジア	375	63.2%	815	49.3%	524	39.6%	1,090	33.7%
	EMEA	1,653	18.7%	3,417	18.4%	2,212	33.8%	4,483	31.2%
トルソプト点眼液	合計	2,292	1.3%	4,374	0.2%	2,430	6.0%	4,476	2.3%
	日本	587	△12.4%	1,108	△9.7%	516	△12.1%	973	△12.2%
	アジア	194	9.2%	382	10.9%	210	8.5%	390	2.1%
	EMEA	1,511	6.8%	2,883	3.2%	1,703	12.7%	3,112	7.9%
エイベリス点眼液	合計	1,671	38.2%	3,420	34.8%	2,045	22.4%	4,181	22.3%
	日本	1,629	34.8%	3,304	31.3%	1,933	18.7%	3,836	16.1%
アジア	42	—	116	475.4%	112	166.1%	289	150.1%	
角結膜疾患治療剤領域									
ジクアス点眼液	合計	9,186	29.2%	18,835	30.8%	9,342	1.7%	25,693	36.4%
	日本	6,651	9.4%	13,342	8.6%	6,768	1.8%	18,009	35.0%
	中国	1,681	591.4%	4,074	468.5%	1,629	△3.1%	5,660	38.9%
	アジア	855	8.9%	1,419	1.1%	944	10.5%	2,024	42.6%
ヒアレイン点眼液	合計	8,314	△14.4%	17,779	△3.5%	6,916	△16.8%	13,822	△22.3%
	日本	3,323	△7.8%	6,466	△7.2%	2,934	△11.7%	5,078	△21.5%
	中国	4,219	△11.6%	8,943	△3.4%	2,591	△38.6%	6,463	△27.7%
	アジア	773	△41.9%	2,370	8.0%	1,392	80.1%	2,282	△3.7%
Ikervis (アイケルビス)	合計	3,011	45.0%	5,856	29.3%	3,686	22.4%	7,158	22.2%
	アジア	537	28.7%	1,106	24.2%	807	50.3%	1,465	32.4%
	EMEA	2,475	49.1%	4,750	30.6%	2,879	16.4%	5,693	19.9%
Cationorm (カチオノーム)	合計	1,635	1.9%	3,230	5.5%	2,313	41.5%	4,183	29.5%
	アジア	185	47.4%	467	82.5%	260	41.0%	440	△5.7%
	EMEA	1,068	4.3%	2,078	5.6%	1,432	34.1%	2,564	23.4%
米州	382	△16.0%	685	△18.3%	621	62.3%	1,179	72.2%	
抗アレルギー点眼剤領域									
アレジオン点眼液 (アレジオンLX点眼液を含む)	合計	9,567	24.3%	29,392	△10.3%	7,965	△16.7%	28,840	△1.9%
	日本	9,506	23.5%	29,286	△10.5%	7,878	△17.1%	28,660	△2.1%
	アジア	61	—	106	465.8%	86	41.4%	180	69.3%
Verkazia (ベルカジア)	合計	313	501.2%	633	255.2%	537	71.3%	1,300	105.2%
	EMEA	292	557.3%	585	260.6%	420	43.8%	806	37.8%
	米州	21	175.6%	49	201.0%	116	451.3%	438	799.7%
網膜疾患治療剤領域									
アイリーア硝子体内注射液	合計	36,475	9.6%	72,484	12.5%	35,848	△1.7%	67,237	△7.2%
	日本	36,475	9.6%	72,484	12.5%	35,848	△1.7%	67,237	△7.2%
眼感染症治療剤領域									
クラビット点眼液	合計	6,859	△9.5%	11,712	△7.4%	5,079	△26.0%	11,870	1.4%
	日本	971	△10.0%	1,754	△11.0%	695	△28.5%	1,360	△22.5%
	中国	4,415	△10.7%	6,966	△12.1%	2,587	△41.4%	7,016	0.7%
	アジア	874	△20.4%	1,866	8.3%	1,045	19.6%	2,210	18.5%
	EMEA	599	32.1%	1,126	9.4%	753	25.6%	1,284	14.1%
医療機器									
レンティス コンフォート	合計	668	43.9%	1,422	18.9%	639	△4.4%	1,547	8.8%
	日本	668	43.9%	1,422	18.9%	639	△4.4%	1,547	8.8%
ブリザーフロ マイクロシャント	合計	728	104.5%	1,612	80.9%	1,124	54.4%	2,385	47.9%
	EMEA	728	104.5%	1,612	80.9%	1,119	53.8%	2,363	46.6%
一般用医薬品	合計	5,087	1.7%	9,780	3.9%	5,639	10.8%	10,347	5.8%
	日本	4,791	△0.7%	9,185	1.4%	5,068	5.8%	9,331	1.6%
	中国	—	—	7	—	114	—	288	—
アジア	296	67.1%	588	67.1%	456	54.1%	728	23.9%	

(2) 主要通貨為替レート

(単位：円)

通貨	2022年3月期 第2四半期	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	2023年3月期 (予想)
USドル	110.09	112.57	133.46	140.00
ユーロ	131.14	130.75	138.61	140.00
中国元	17.05	17.55	19.84	20.00

※上記の見込等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。通期見込については想定為替レートで換算して表示しています。なお、地域別は主要国地域を記載しています。

（3）開発状況

2022年10月時点

■開発状況一覧表（臨床段階）

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	STN1007603 / DE-076C	春季カタル	自社	米国						2022年5月
				中国						2022年4月
免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオン性製剤技術により組織移行性を高めた製剤。欧州で、2018年10月以降順次発売。アジアで、2019年8月にIkervisの適応拡大として承認を取得以降、順次発売。カナダで、2019年11月に発売。米国で、2022年5月に発売。中国で、2022年4月に販売承認を取得。										
ジクアホソルナトリウム	STN1008903 / DE-089C	ドライアイ	Merck Sharp & Dohme Corp. (米国)	日本						2022年6月
角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。持続製剤。日本で、2022年6月に製造販売承認を取得。										
シロリムス	STN1010904	フックス角膜内皮ジストロフィ	アクチュアライズと共同開発	米国 フランス インド		(フェーズ2a)				
mTOR阻害作用によりフックス角膜内皮ジストロフィの症状を改善する懸濁点眼剤。2022年5月に米国、フランス、インドでのフェーズ2a試験を開始。（※開発コード（STN1010904）は、フェーズ2試験終了時に当社が独占の実施権を獲得した後に附番予定のコードです。）										
シロリムス	STN1010905	マイボーム腺機能不全	自社	日本		(フェーズ2a)				
mTOR阻害作用によりマイボーム腺の機能を改善する懸濁点眼剤。日本で、2022年8月にフェーズ2a試験を終了。										
タフルプロスト/ チモロールマレイン酸塩	STN1011101 / DE-111A	緑内障・高眼圧症	AGCと共同開発	中国						
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体及びβ遮断剤の配合剤。2014年11月、日本で発売。2015年1月以降、欧州で順次発売。2016年4月以降、アジアで順次発売。中国で、2019年1月からフェーズ3試験を実施中。										
エピナスチン塩酸塩	STN1011402	アレルギー性結膜炎	日本ベーリンガーインゲルハイム	日本						
ヒスタミンH ₁ 受容体拮抗作用とメディエーター遊離抑制作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤。眼科用クリーム製剤。日本で、2022年10月にフェーズ3試験を終了。										
オミデネパグ イソプロピル	STN1011700 / DE-117	緑内障・高眼圧症	UBEと共同開発	米国						2022年9月
				日本						2018年11月
				アジア						2021年2月
新規メカニズムのEP2受容体作動薬。米国で、2022年9月に販売承認を取得。日本で、2018年11月に発売。アジアでは2021年2月の韓国以降、複数国で順次発売。										
sepetaprost	STN1012600 / DE-126	緑内障・高眼圧症	小野薬品工業	米国						
				日本						
				欧州		(探索的試験)				
FP受容体及びEP3受容体への作動作用（デュアル作動薬）を有する新規メカニズムのプロスタグランジン誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。米国で、2021年12月に追加のフェーズ2試験を終了。日本で、2022年8月にフェーズ3試験を開始。欧州で、2021年9月にフェーズ2試験（探索的試験）を開始。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
アトロピン硫酸塩	STN1012700 / DE-127	近視	Singapore Health Services社、 南洋理工大学	日本	(フェーズ2／3)					
				中国	(フェーズ2／3)					
				アジア						
小児における近視の進行を抑制する非選択的ムスカリン受容体拮抗薬。日本で、2019年8月からフェーズ2／3試験を実施中。中国で、2022年6月にフェーズ2／3試験を開始。アジアで、2020年4月にフェーズ2試験を終了。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
アトロピン硫酸塩	STN1012701 / SYD-101	近視	Sydnexis社	欧州						
小児における近視の進行を抑制する非選択的ムスカリン受容体拮抗薬。導入元であるSydnexis社により欧州及び米国でフェーズ3試験が実施中。当社は、欧州、中東及びアフリカ地域における独占ライセンス権を保有している。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
緑内障用デバイス	STN2000100 / DE-128	緑内障	自社	日本						2022年7月
				欧州						2019年4月
				アジア						2021年9月
原発開放隅角緑内障における眼圧下降を目的とし、房水の流出を促すインプラント手術用デバイス。日本で、2022年7月に上市（ソフトローンチ）。欧州で、2019年4月に発売。アジアでは、2020年3月以降順次販売承認を申請しており、2021年9月以降にシンガポールなどで承認を取得。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ラタノプロスト	STN1013001 / DE-130A (Catioprost)	緑内障・高眼圧症	自社	欧州						2022年9月
				アジア						
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体の緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。欧州及びアジアで、2022年3月にフェーズ3試験を終了。欧州で、2022年9月に販売承認を申請。										

化合物名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
AFDX0250BS	STN1013400	近視	ベーリンガー インゲルハイム	日本						
小児における近視の進行を抑制する選択的ムスカリンM2受容体拮抗薬。特定のサブタイプを選択的に阻害するため、散瞳が抑えられる。日本で、2021年9月にフェーズ1試験を終了。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ウルソ デオキシコール酸	STN1013600	老視	自社	日本						
水晶体の弾力性を向上させることで老視の症状を改善。日本で、2022年4月にフェーズ1試験を終了。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
オキシメタゾリン 塩酸塩	STN1013800	眼瞼下垂	RVL Pharmaceuticals 社	日本						
直接作用型αアドレナリン受容体作動薬。米国では、RVL Pharmaceuticals社が開発し販売中。日本で、2022年10月にフェーズ3試験を開始。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ネタルスジル メシル酸塩	STN1013900 / AR-13324	緑内障・高眼圧症	Aerie社	日本						
				欧州						
				アジア					2022年3月	
ROCK (Rhoキナーゼ) 阻害剤。米国では、Aerie社が開発し販売中。日本で、2020年11月からフェーズ3試験を実施中。欧州で、販売承認取得済み。アジアで2022年3月に販売承認を申請。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ネタルスジル メシル酸塩/ ラタノプロスト	STN1014000 / PG-324	緑内障・高眼圧症	Aerie社	欧州						
ROCK (Rhoキナーゼ) 阻害剤及びプロスタグランジンF _{2α} 誘導体の配合剤。米国では、Aerie社が開発し販売中。欧州で、販売承認取得済み。アジアで、2022年5月に販売承認を申請。										

■ 2022年度第1四半期決算発表時（2022年8月4日）からの変更点

開発コード	変更点
STN1011700 / DE-117	米国で、2022年9月に販売承認を取得。
STN1012600 / DE-126	日本で、2022年8月にフェーズ3試験を開始。
STN1013001 / DE-130A	欧州で、2022年9月に販売承認を申請。
STN1013800	日本で、2022年10月にフェーズ3試験を開始。

（4）設備投資、減価償却費及び償却費、製品に係る無形資産償却費並びに研究開発費

■設備投資

（単位：百万円）

	2022年3月期		2023年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
設 備 投 資 額	13,737	22,244	13,175	25,000

（注） 使用権資産の増加は除いています。

■減価償却費及び償却費

（単位：百万円）

	2022年3月期		2023年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
総 額	2,222	4,540	2,445	5,480
製 造 経 費	1,141	2,309	1,164	2,400
販 売 管 理 費	792	1,654	986	2,300
研 究 開 発 費	289	577	295	780

（注） 製品に係る無形資産償却費、長期前払費用の償却費及び使用権資産の償却費は除いています。

■製品に係る無形資産償却費

（単位：百万円）

	2022年3月期		2023年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
総 額	4,787	9,734	5,166	9,330
メ ル ク 無 形 資 産 償 却 費	2,870	5,740	2,904	5,740
E y e v a n c e 無 形 資 産 償 却 費	929	1,899	1,126	1,180
プ リ ザ ー フ ロ マ イ ク ロ シ ャ ン ト 無 形 資 産 償 却 費	467	955	566	1,190
I k e r v i s (ア イ ケ ル ビ ス) 無 形 資 産 償 却 費	371	741	393	790
そ の 他	150	398	177	430

■研究開発費

（単位：百万円）

	2022年3月期		2023年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
研 究 開 発 費	12,338	26,377	14,267	31,000
対 売 上 収 益 比	9.6%	9.9%	11.1%	11.1%

※上記の見込等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。